

## 逆転の発想（よみがった貴志川線・♪）

筆者の生まれ故郷は紀州・和歌山です、御幼少の頃から高校まで豊かな自然と家族の愛にはぐくまれて成長した様です。あの頃は那賀郡小倉村（今は和歌山市）と呼ばれ、南に紀伊山塊が峰を連ねています。その山を越えれば貴志川村（今は和歌山市）で和歌山市街地から十数キロの電車が走っています。当時は南海電鉄貴志川線と言われ、朝夕のラッシュ時は言うに及ばず日常でも結構乗客が居ました。近隣に、大池公園と言う桜の名所があり、小学校の頃母に連れられ花見に行った記憶があります。又、母の妹も沿線に住んでいたのでよく乗ったものです。単線で2両連結だったと思います。それがモーターリゼーションの発達と狭かった県道が整備され序々に乗客が少なくなって、南海電鉄のお荷物となってしまう、2年前に廃線と決まったそうです。少なくなったとは言え車を持たないお年よりや市内の高校に通学する生徒にとっては貴重な足であることは変わりません。地元で存続運動が始まりました、和歌山市も経費の一部を負担する案のあったそうですがそれもかなわず、廃線決定まで進みました。その時、岡山の電鉄会社（山陽電鉄？）がその路線を買い取るとの話が持ち上がり南海電鉄は売却、その電鉄会社の担当常務は過去に多くの赤字路線を建て直した方で、中国地方・九州の弱小路線を黒字にもっていった実績があるそうです。着任して第一に始めた事は電車のデコレーション化でした。カラフルな色に塗りなおし、乗って楽しい雰囲気を作ったのです。又車内の両側にあった座席を1/3まで取り外し、自転車每乗れる様にしました。勿論それができる様主要駅のホームの改善したことは言うまでもありません。これで通学生は最寄の駅まで自転車で行ってそのまま電車利用、終点の貴志川和歌山駅で降り同じ自転車で学校へ・と言うパターンが生まれました。又、今迄通勤に車を利用していた人達も昨今の渋滞から序々に通学生を真似て電車利用へと回帰しはじめたとのことです。更に通学生や通勤客を相手にした電車弁当（日替わり）を作り主要駅で販売しているとのこと、又それらを聞いた関西の観光客相手に宴会列車を企画して、今では充分採算が取れる路線と変貌したそうです。まず座席を減らす等は普通の鉄道マンでは絶対出ない発想で、自転車ごと運ぶ等も出ないと思います（一部運輸省とのやり取りがあったそうですが）又電車弁当は業者に造らすのでは無く、沿線の主婦に呼びかけ、コンペを行い販売はお年よりがボランティア程度のギャラで行っているそうで、市価より相当安いのも関わらず採算に合っており。これは近隣お年よりの生きがいとも成って販売希望者は多いとのことでした。勿論このことはミニ路線でこそ出来たことであって、全てが成功するとは言えませんがこの様な発想はこれからの社会で一考する価値はあ

ると思います。この話は貴志川村（現和歌山市）に在住しているイトコから聞きました。

noricyann

### 240誌へ投稿しよう（歴史を継承する為に・）

筆者は240グループの一員であると同時に☆☆クラブの末席会員でもあります。と言う訳で240誌以外にも会員誌が入手できますが、240誌程読み応えのある刊行物は無いと断言出来ます。外のほとんどが無線に関連した記事で、編集も官公庁スタイルと、全く面白く有りません。また文としての魅力も無い中で、240誌のみはきちんとした編集が成され内容も種種雑多、本としての体裁を整えています。先般某局へ送付しましたら、立派な物とお褒めの言葉を戴きました。この灯を消してはなりません。頭目の「志」を消してはなりません。どの様なことでも良いと思います。奮って出稿して戴きたいと願います。・・・